



府中用水と 生き物と農業の関係 知ってましたか？

ワークショップリーダー齊藤さんから、府中用水の歴史や豊かな生態系、そして、生態系維持には用水を利用している都市農業者が大きな役割を果たしていることを紹介していただきました。

府中用水を歩いてみる

国立（くにたち）というと、多摩地域でも閑静な住宅街で有名。しかし、ハケ（河岸段丘の崖線）の下には、現役の農業用水が生きていました！

←湧水と玉川からの水が合流するスポット「矢川おんだし」。左側から流れるのが多摩川の水。右奥から流れるのがハケ（河岸段丘の崖線）からの湧水。水の色の違いが、はっきりとわかります。

くにたち郷土文化館とボランティアスタッフによる「ハグロトンボ調査隊」と遭遇。また、用水に棲む生き物を、その場で捕まえて観察しました。

とにかく湧水がきれい。子どもの遊び場、野菜の洗い場として使われているそうです。

印象に残ったことを 地図に書き込んでみた

写真とコメントを地図に貼っていました。

再度、府中用水へ

午後は、住宅街を流れる用水に沿って、歩いてみました。

最後に意見交換

江戸時代からの旧家をリフォームしたコミュニティスペース「やぼろじ」で意見交換。地図に観察内容や意見を記入し、「100年後の府中用水」について意見交換を行ないました。

「このままの姿で残ってほしい」というのが、参加者全員の意見。しかし、一方では、「農業者が減って維持が不可能になるのでは？」、「企業が進出した土地では、用水が暗渠化している」「用水の用途を変えるのは簡単ではない」など、いくつかの意見が出されました。

府中用水を“使う”ことが、結果として府中用水を“守る”ことにつながるわけですが、立場によって異なる考えを、いかに調整していったらいいかという課題が残ります。里川の可能性とともに、実現への課題を実感する学びのときとなりました。

里川文化塾 府中用水ワークショップ

里川文化塾「府中用水ワークショップ」が開催されました。

里山や里海だけではなく、暮らしとかわるすべての水循環の経路を私たちのセンターでは「里川」と呼んでいます。いろいろな里川を発見しその価値を身近に感じたい！ということで、第1回の里川文化塾に選んだフィールドは府中用水（東京都）です。

日時・・・2011年9月11日（日）

会場・・・府中用水・くにたち郷土文化館

主催・・・ミツカン水の文化センター

共催・・・くにたち郷土文化館

ワークショップリーダー・・・齊藤友里加さん（くにたち郷土文化館学芸員）



齊藤友里加さん

里川文化塾 ラインナップ

今後もさまざまな場所、さまざまなテーマで里川文化塾を展開していきます。センターのホームページで各回の開催予告やレポートを掲載していきますので、ご期待ください。

里川づくりワークショップ（※ご好評のうち終了しました）

会期・・・2011年10月23日（日） 10時～17時

会場・・・ミツカンフォーラム 東京都中央区・日本橋川・神田川・隅田川・小名木川
水先案内人・・・難波匡甫さん（法政大学サステイナビリティ研究教育機構研究員）

小水力発電

会期・・・2011年11月17日（木） 14時～20時30分

会場・・・川井浄水場 横浜市旭区・横浜市技能文化会館 ホール
講師・・・古谷桂信さん（フォトジャーナリスト）

都市河川

会期・・・会場・・・調整中

講師・・・中村晋一郎さん（東京大学総括プロジェクト機構「水の知」総括寄付講座特任教授）

■水の文化40号予告

特集「禹王」(仮)

中国・夏王朝の禹文命は、治水の神様として知られています。過去の叡智を現代に生かし、未来につなげる必要性が痛感される出来事が多発する今、禹王に学ぶべきものは何でしょうか。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

ホームページをフルリニューアルしました

当センターのホームページが、11月にフルリニューアルいたしました。知りたい情報にたどり着きやすくすることを心がけ、ウェブならではのコンテンツも新設しています。新しくなったホームページ、どうぞご覧ください。

編集後記

◆取材を通して、小水力が着実に各地で取り組まれていることが実感できた。今、太陽や風にやや焦点が当たっているが、この小さなうねりを組み込んだベストミックスエネルギーが将来実現してほしい。(宮)

◆水が資源を生産するという新しい価値を持つことに、大きな意味が生じる。人々の暮らしとの距離を保つことも可能だし、地域コミュニティの維持にも活用できそう。地域に暮らす自分たちの資源で、新たな価値を生み出すことができれば、さまざまな障壁も乗り越えることができるかもしれない。(新)

◆テレビ番組でも小水力の特集を見ることが多くなった。来夏の夏休みには、自由研究として子供と一緒に実験してみようというのはどうだろう。地域のコミュニティづくりにもなるのでは？ 近場に適地がない地域では遠足も兼ねて出かけてみる。楽しみながらエネルギーを考える、というのはいかがでしょうか。(ゆ)

◆3・11後に取材が始まり6カ月。再生可能エネルギーへの過熱期待が冷める一方「シエールガス革命」という言葉が踊り、北米天然ガス価格が下がりがつつある。CO₂削減、経済成長、エネルギーリスク。この三つ巴の中で、小水力発電をどう戦略的に位置づけるか。本気に考える時が来ている。(中)

◆情報流通の主体がマスから個人に変容しつつあるように、エネルギー生産の主体もマスから地域に変容する時代を迎えようとしている。劇的な変革の起点はいつも小さな流れであることを、山奥のせせらぎの音を聞きながら再認識した。(緒)

◆デンマークには全国各地に風力発電スポットがあるが、地図にプロットすると外形線がなくてもデンマークの地形が浮かび上がってくる。同様に日本の各地に張り巡らされた水路に発電可能な場所をプロットしていきたい。点だけで日本列島が浮かび上がってくることを思い描いて。(力)

◆「夢の実現は強く願い、努力すること」と言ったのは、アップル社の故スティーブ・ジョブズ。「なぜ成る為さねば成らぬ何事も成らぬ人の為さぬなりけり」は上杉鷹山の言葉。本当にできるかできないかは、やる気の問題のような気がする。ガンバレ、小水力！(賀)

発行日 2011年(平成23)11月

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第39号

企画協力 沖大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
島谷幸宏 九州大学工学研究院教授
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

客員主幹研究員 中庭光彦 多摩大学准教授

制作 宮崎真次 新美敏之 松本裕佳 小林夕夏 緒方大輔 原田朱野 吉田奈保子

編集製作 賀川一枝 編集長 中野公力 賀川督明 デザイン・撮影

発行 ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中壘ビル9F
株式会社ミツカングループ本社
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複製

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局
〒104-0043 東京都中央区湊3-4-10 レジディア10F
Tel. 03 (3552) 7504 Fax. 03 (3552) 7506